

第4回阿波しらさぎ文学賞 なかむらあゆみさん「空気」 徳島新聞賞 宮月中さん「にぎやかな村」

第四回阿波しらさぎ文学賞の受賞作が発表され、大賞の阿波しらさぎ文学賞に徳島文学協会会員のなかむらあゆみさんの「空気」、徳島新聞賞に同じく会員の宮月中さんの「にぎやかな村」が選ばれた。

九月十一日に授賞式と文学トークが開催された。徳島文学協会の佐々木義登会長の司会進行で、受賞者三人と最終選考委員を務めた芥川賞作家の吉村萬壱さんと小山田浩子さんが、Zoomを使って受賞作品について語った。

受賞作品及び最終選考委員による選評は、徳島新聞ホームページに掲載されている。

<https://www.topics.or.jp/articles/-/581576>



2021年9月11日授賞式にて
左より徳島新聞社理事 岡本光雄氏、宮月中さん、なかむらあゆみさん、佐々木会長

受賞のことば

なかむらあゆみ

言葉にして伝えることは難しい。実際に体験したことを説明するだけで難儀する。ましてや頭に浮かんだ世界の欠片みたいなものや、不明瞭な気持ちや文章にして不特定多数の人に伝えることなどどうしてできようかと思う。しばらく置いて読みかえすと「なんだこれ」と意味不明な文章に唾然とし、一からまた書き直す。そんなことばかり繰り返している。だいたい言葉なんて誰かを傷つけたり、誤解を生んだり、一旦放つと戻すこともできない危険を持つている。日常生活での会話など、少ない方がどれだけ平穏に暮らせるかと思ったりする。

さりとて私は言葉を考え、書き続けている。それは長く唸ったのちに突如やってくる閃きや、思ってもみなかった世界への導き、また、行きつ戻りつ書いたちぐはぐな文章が推敲を重ねるうちに少しずつ磨かれ、輪郭や趣旨のようなものが現れてきた時の喜びや感動があるからだ。もちろん稀にはあるが……。



2021年9月11日授賞式にて

今回受賞した「空気」という作品も、最初は下手な言葉をただ並べていくことから始まった。形になるのかわからないまま構成を変え、人称を変え、応募する三日前までどんな言葉で表現すれば、頭の中の漠然としたイメージが伝わるか悩んでいた。そもそもイメージ自体が不確実なのに言葉に変換などできるのか？ 読み手に、審査員にこの物語は伝わるのか？ 原稿用紙十五枚分の言葉とぎりぎりまで向き合い、焦りの中で完成させた作品だった。

「阿波しらさぎ文学賞」受賞者は私で四人目。先輩方の書き方はもちろん知らないが、私にお伝えできるのは、こんなふうにはふらふらと最後まで言葉に弄ばれ、思い煩いながら書いても受賞できることがあるということ。門戸は広い！

受賞の言葉

宮月中

阿波しらすぎ文学賞は自分にとって最も思い出深い賞です。第一回で徳島文学協会賞に選ばれ、これまで仲間内に見せるだけだった小説の世界が大きく広がりました。ありがたいことに第二回でも賞をいただきましたが、そのポジションは動きませんでした。それから僕の同賞への取り組みは、受賞するかしないかの二択ではなく、自作と大賞とを隔てているものが何であるのかを問い続ける戦いとなりました。

今回、第四回では徳島新聞賞をいただきました。これを前進と呼べるのか、やはり頂点には届かず立ち止まっているのか、自分だけではなかなか判別がつかえません。ただ審査員の方々から「レベルを上げている」との言葉をいただいたので、少しは上達しているのだと励まされました。

「にぎやかな村」では架空の

廃村と、そこに確かに存在したはずの人々の息遣いをリアルに描き出すことを試みました。第一回から、失われた川、いつか来る災害、普段は見えない地面の境界線と、一貫して「人々が直視を避けがちな足元に目を向ける」ということを意識して創作してきました。同時に僕自身、創作の過程で自分の住んでいる土地について調べ、歩き、時に批判精神をもって見つめ直すことは存外楽しく、今では毎年の楽しみのようなようになっております。昨年の応募直後には「もう今回で最後かなあ」などと思っていたのですが、そのうちいつ



2021年9月11日授賞式にて



リモートによる文学トークイベント

の間にか、「次はこんなテーマにしようかな」「こんなアプローチもできるな」と考えている自分がいました。僕はもともと徳島の生まれではないのですが、賞を通して随分徳島に詳しくなつたように思います。素敵なご縁をどうもありがとうございます。

余談ですが受賞後になって初めて、モデルの一つとした奥祖谷へ旅行に行きました。若い子たちがたくさん写真を撮っていて、たいへん気持ちの良いところでした。

『徳島文学 Volume 5』

二〇二二年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 5』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸誌を発行しています。芥川賞作家やプロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。

◆応募資格

徳島文学協会会員限定

◆応募作品

■「コラム」

十八文字×六十四行(タイトル・著者名を除く)以内、テーマ不問

■一般文芸作品

小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句など広義の文学作品、および書評の未発表作品

◆締め切り

二〇二二年一月十一日(火)

当日消印有効

徳島文学協会事務局まで郵送

詳細はホームページにて

<https://www.t-bungaku.com/introduction/bungaku05.pdf>



阿波しらすぎ文学賞 祝賀会を開催しました

会員のなかむらさんと宮月さんが受賞されたことを記念し、十月九日にZoomにて祝賀会を開催しました。

参加者は各自アルコールなどを手に、お二人の受賞を祝いました。

参加者は創作をしている方が多いので、受賞作はどれくらいの時間をかけて書かれたのか、などの質問も飛び、創作方法について意見をかわしながら和やかな会となりました。

改めてお二人とも、受賞おめでとうございます。今後のますますのご活躍をお祈りしています。



祝賀会の様子

そこそこから出た実

有雅 瞳

自分の身の丈は分かっているつもりです。思考力、表現力、感性、行動力、粘り強さ、誠実さ、等々、何かにつけて面白いほどそこそこなのです。

そんな私が三五歳のときに、一大決心をしました。「母のために書く」とです。意地っ張りな私が入院しがちの母のためにできることはそれしか思いつかず、そうすることで母に心から笑ってもらえるかもしれないと考えたのです。

しかし、私はそこそここのヒト。仕事、子育て、家事をこなしながら、一冊の本の体を成せるほどの質と量の文章を書くことは、至難の業です。案の定、先送り先送りととなり、七年目にやっとそれらしい文章が書けたと思えました。

いくつかの出版社に原稿を送り、自費出版か共同出版か企画出版か（呼称は会社により若干違います）の審査を受け、そのほとんどから共同出版の回答をいただきました。やっぱり、そこそこです。笑えました。

完成した本を母に手渡してから数日後、病室を訪ねると枕元に私の書いた本が置かれていました。

「この間、看護婦さんに本のこと聞かれて、『これ、娘が書いたんよ』と言

うたら、『読ませてもらってもいいですか』って……。さつき返してくれて、『すごい良かった』って」

そう言っつて、母は何かを慈しむように柔らかに笑いました。この笑顔が見たかったから、私は文章を書きあげることができたのでしよう。自分のためだけでは、途中でほっぽり出していたと思います。また、本にしたことで「私にも確かに瞳さんの心が届きました」「いつも寝る前に読んでます」などの言葉を読者から戴くこともできました。

何でもそこそこ私ですが、強い想いをもち歩みを止めなかったことで、最高のご褒美を手にすることができました。感謝です。

【俳句】

西川武

秋彼岸思はぬひとに巡り合ひ
永久歯三本残し柿を食ふ
秋風や軍手片方轆かれをり

【短歌】

如月玲

カラフルなペンキの滲む作業衣に女工
員来し早朝のコンビニ
大正のモダンなる医院リフォームし次
世代たちの住居にかはる

苔を食む鮎がここだく翻りきらりき
らきら銀鱗ひかる

掲載作品募集

会員のみなさんの積極的な応募をお待ちしております。

「ニューズレター」「とと」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。（送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください）

- ◆ エッセイ等 八百字以内
- ◆ 詩 四百字以内
- ◆ 短歌 三首以内
- ◆ 俳句 三句以内

「とと」は春、夏、秋の年三回発行ですが、一回につき掲載できるエッセイは二〜四作品です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

ホームページ「作品広場」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。小説、エッセイ、評論、児童文学、詩、俳句、短歌などオリジナルの作品に限ります。

最新掲載作品

俳句「志士の影」 魚井遊羽

作品、募集要項はホームページで

<https://www.tbungaku.com/plaza.html>

「とと」：古代エジプト文明の知恵の神「トト」に由来する。

文学イベント案内

ブラッシュアップ小説講座

小説を書いたことがない方や、初心者でアドバイスを受けながら小説を完成させたい方が対象です。

- 開催日 2022年1月29日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品提出 3,000円/参加のみ 1,500円
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

公募実践対策小説講座

全国公募の文学賞への応募を目指す方が対象の講座です。受講に際しては、事前に作品を読ませていただき、クラス分けをさせていただく場合があります。

- 開催日 2021年12月18日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品提出 3,000円/参加のみ 1,500円
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方やプロの作家を目指す方が対象の講座です。

- 開催日 ①2022年1月8日(土) ②3月5日(土)
全回 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品提出 3,000円/参加のみ 1,500円
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 10人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

俳句講座

対面での句会を行います。投句は冬の句を2句ですが、1句でも、聴講だけでも大丈夫です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

- 開催日 2022年2月5日(土) 19時～20時30分
- 場所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象 1,000円
- 講師 俳人・うっかり

※講座参加費と作品提出料は、後日とりまとめた上、『とと』に請求書と払込取扱票を同封し、年3回お送りいたします。

※Zoomでの参加方法がわからない方に、無料でサポートしています。お気軽にお問い合わせください。

詳細は徳島文学協会ホームページ
イベント情報をご覧ください

<https://www.t-bungaku.com/event.html>



通信句会

- 開催月 2022年1月
- 参加費 会員のみ対象 無料
- 講師 俳人・うっかり

※参加方法他

①投句3句受付(15日締切)

当季雑詠(その季節の俳句)を事務局にメールまたはハガキで投句ください。(一人3句まで・未発表作品に限る・ネット掲載も不可)「通信句会参加希望」●会員番号●お名前●投句を記載ください。後日事務局より投句をとりまとめ、投句一覧を参加会員へ送付いたします。

②選句3句・選評受付(25日締切)

投句一覧から3句を選び、選評を書いて事務局にメールまたはハガキでお送りください。

「通信句会選句」●会員番号●お名前●選句●選評を記載ください。後日事務局より、参加会員の選句と選評、講師の句評をまとめた句会報を参加会員へ送付いたします。

③みんなの文芸誌『カクヲタノシム』誌面掲載(2022年冬) 参加会員の俳句を掲載予定です。

「私のイチオシ本」

お気に入りの小説やマンガなどを持ち寄り、1人1作品、持ち時間5分でプレゼンします。作品の魅力に改めて気づいたり、読書の幅を広げることができます。

- 開催日 2022年3月26日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoomミーティング』による開催
- 参加費 会員のみ対象 無料
- 定員 15人程度

民雄忌 ～北條民雄を偲ぶ会～

北條民雄顕彰活動の一環として、一昨年より開催されてきた「民雄忌 ～北條民雄を偲ぶ会～」。

文学者北條民雄の残した作品などを市民の方により解りやすく知っていただけるよう、基調講演とパネルディスカッション形式のトークセッションで開催いたします。

出演

ドリアン助川 (作家、詩人、明治学院大学教授)

佐々木義登 (国文学者、四国大学文学部教授、徳島文学協会代表)

清原工 (ライター)

小笠原憲四郎 (阿南文化協会会長)

大窪俊之 (徳島県立城北高等学校教諭)

- 開催日 2021年12月5日(日)
18時～20時(開場は17時30分)
- 会場 阿南市文化会館 夢ホール
- 参加費 無料
- 定員 100名(予定・事前申し込み不要)

ご入会や講座のお申込み・お問合せは
徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103
TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com
<https://www.t-bungaku.com/>